

岩手県感染症週報

平成30年第16週(4月16日～4月22日)

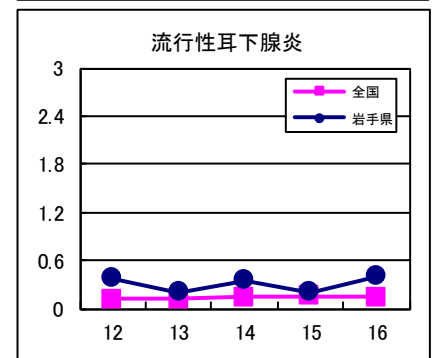
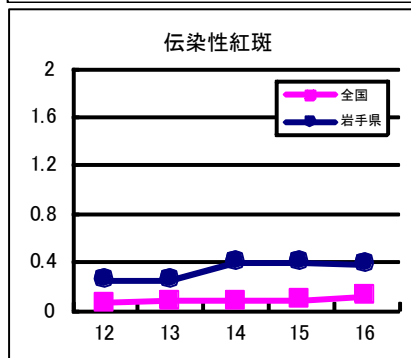
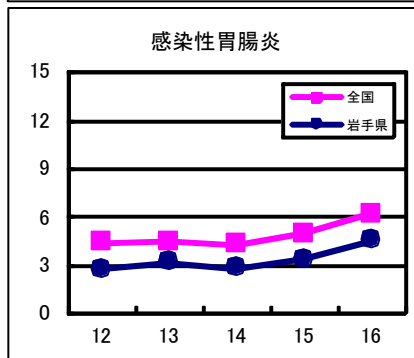
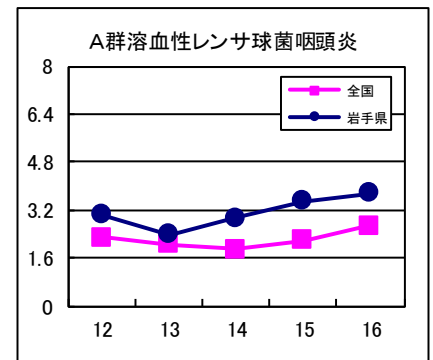
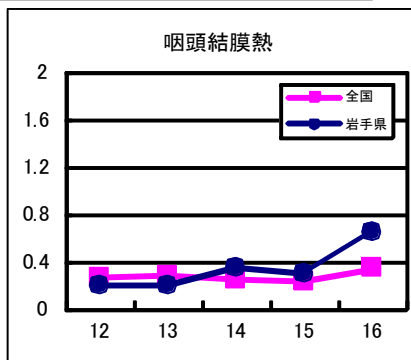
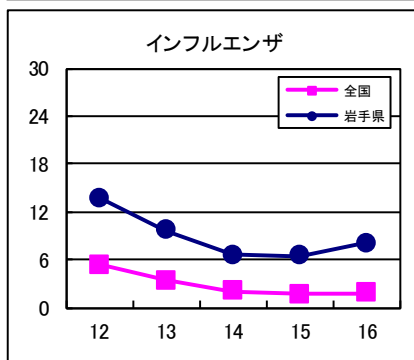
岩手県感染症情報センター

第16週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が6例ありました。6例とも潜在性結核感染症でした。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患) ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・インフルエンザは、前週より増加し、県央、釜石及び宮古地区では注意報値(定点当たり患者数10人)を超えました。新学期に入り、学校等閉鎖措置が多く報告されています。予防には手洗いの徹底と咳エチケットが重要です。
 - ・感染性胃腸炎は、盛岡地区の保育園においてサポウイルス、二戸地区の保育園においてノロウイルスの集団感染事例の報告がありました。食べ物に触れる前やトイレの後の十分な手洗いや、患者の吐物や便は塩素系薬剤を使用して適切に処理することが重要です。
 - ・溶連菌咽頭炎は、二戸地区で患者が増加し、2週続けて警報値(同8人)を超えています。
 - ・大型連休中に海外旅行を計画している方は、海外で感染症にかからないために、正しい知識や予防法を身に付ける必要があります。旅行前に、厚労省検疫所や外務省の海外安全ホームページなどで渡航先の情報の確認を。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。
 ※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		12	13	14	15	16		
インフルエンザ	岩手県	13.72	9.6	6.62	6.51	8.09	↗	☆
	全国	5.35	3.39	2	1.66	1.76		
RSウイルス感染症	岩手県	0.35	0.18	0.1	0.18	0.33	→	☆
	全国	0.38	0.36	0.32	0.4	0.41		
咽頭結膜熱	岩手県	0.2	0.2	0.35	0.3	0.65	↗	☆
	全国	0.26	0.28	0.25	0.23	0.34		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	3.03	2.38	2.93	3.5	3.75	↗	☆☆
	全国	2.27	2.06	1.87	2.19	2.66		
感染性胃腸炎	岩手県	2.75	3.18	2.8	3.38	4.55	↗	☆
	全国	4.43	4.5	4.29	5	6.21		
水痘	岩手県	0.18	0.15	0.2	0.15	0.18	→	☆
	全国	0.3	0.27	0.35	0.28	0.29		
手足口病	岩手県	0.05	0.05	0.18	0.13	0.03	→	
	全国	0.13	0.15	0.17	0.23	0.25		
伝染性紅斑	岩手県	0.25	0.25	0.4	0.4	0.38	→	☆
	全国	0.06	0.08	0.08	0.09	0.12		
突発性発疹	岩手県	0.28	0.38	0.48	0.38	0.58	→	☆
	全国	0.37	0.39	0.42	0.49	0.54		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.03	0.03	0.03	0.03	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.02	0.03	0.03		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.38	0.2	0.35	0.2	0.4	→	☆
	全国	0.12	0.12	0.14	0.15	0.14		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.03	0.02	0.03	0.04		
流行性角結膜炎	岩手県	0.71	0.64	0.71	0.43	0.21	↘	☆
	全国	0.53	0.63	0.72	0.72	0.79		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0.05	0	→	
	全国	0.01	0.03	0.02	0.03	0.03		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.21	0	0.16	0.05	0.05	→	
	全国	0.12	0.16	0.13	0.11	0.12		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0.11	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.02	0	0.01		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0	0.11	0.11	0	0.26	→	☆
	全国	0.43	0.42	0.42	0.41	0.52		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	37	27	20	18	11		
	全国	429	311	211	209	164		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		12	13	14	15	16		16	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	2 (2)	3 (1)	3 (2)	3 (1)	6 (6)	63 (31)	339	6180
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	1	58
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	3	26	214
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	15
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	2	7
	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	13	114
四類 感染症	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	17	199
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	2	3
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	4
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	2	46
	デング熱	0	0	0	0	0	0	2	31
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	6	11
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	2
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	13	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	1	0	0	2	13	300	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 12	13	14	15	16	累計	16	累計
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	1	0	0	0	6	7	237
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	0	44
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	2	23	480
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	2	5	272
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	2	60
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	2	10	263
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	1	14	357
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	2	27
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	3	146
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	14
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	1	0	6	47	1228
	水痘 (入院例)	0	0	1	0	0	1	7	109
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	1	2	0	0	10	79	1795
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	3	48
	破傷風	0	0	0	0	0	0	1	19
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	13
	百日咳	1	1	1	0	0	13	72	1023
風しん	0	0	0	0	0	0	4	12	
麻しん	0	0	0	0	0	0	13	86	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	1	5	

今注目の感染症

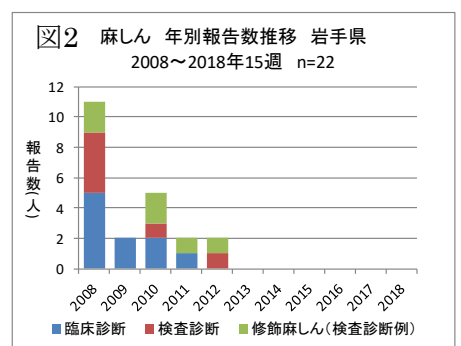
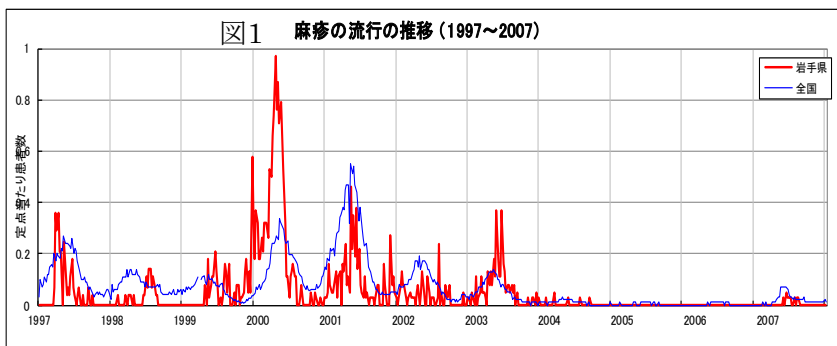
麻しん (はしか)

麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染で、感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。典型的な症状は、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪の症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。また麻疹ウイルスは一時的に宿主の免疫機能を抑制し、約3割の患者が合併症を併発し、肺炎や脳炎を合併した場合には死亡することもあります。

麻しんは、2008年から全数が届出されています。岩手県では2012年第11週まで22例届出されており、2012年第12週以降届出はありません(図2)。全国では、2008年に10～20歳を中心にした流行があり11,013例の報告がありました。2009年以降は35例～732例で推移しています。2018年4月25日現在、沖縄県で海外からの輸入例により70名の患者発生事例が報告されています。

麻しんの予防にはワクチン接種が最も有効です。定期予防接種は、1歳児と小学校入学前1年間の幼児の2回です。自分が感染しないためだけでなく周りの人に感染を広げないために予防接種を受けましょう。

参考 国立感染症研究所 麻しん
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>
 厚生労働省 麻しんについて
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html



今注目の感染症 (つづき)

インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられます。潜伏期間は1～3日間と短く、38℃を超える発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等の全身症状が突然現れます。

岩手県では、例年11月下旬～12月上旬頃に発生が始まり、翌年1～3月頃に患者数が増大します。

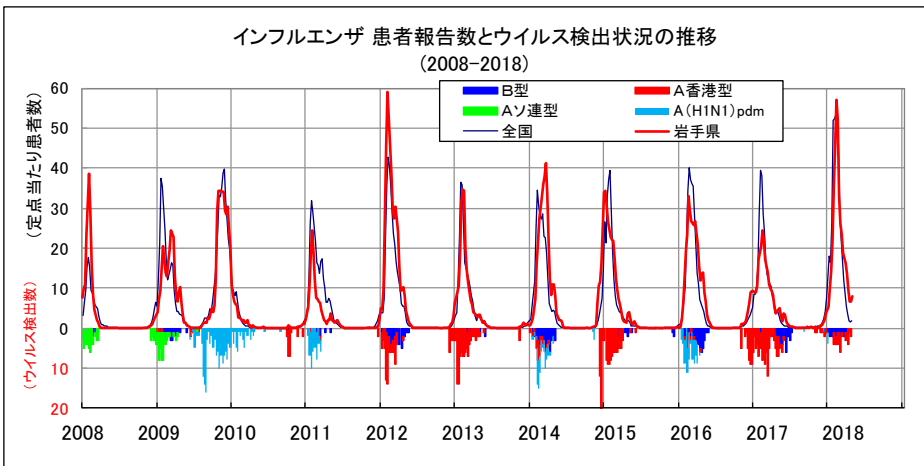
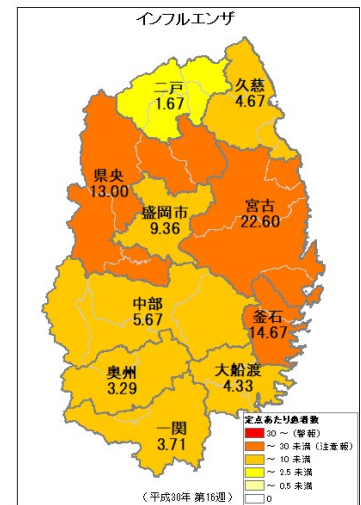
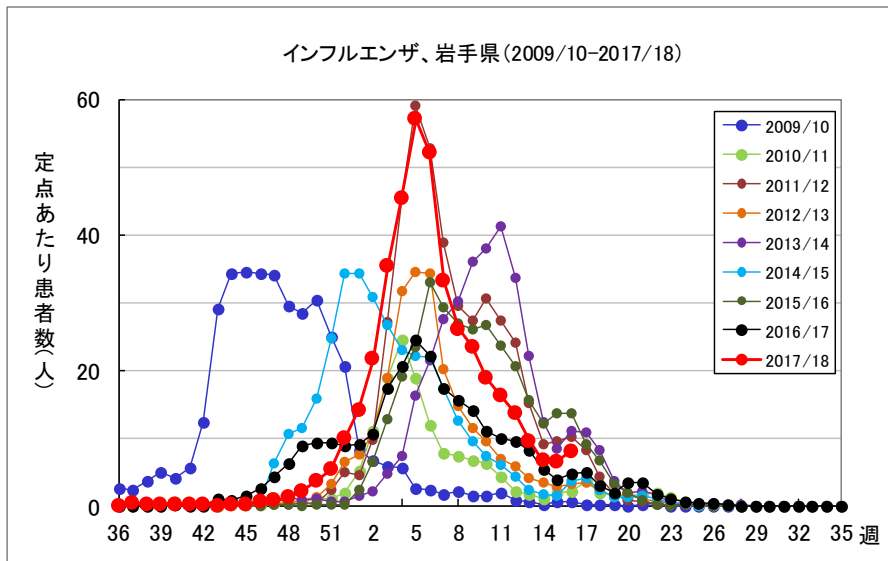
今シーズンは第48週に定点あたり患者数が1.22人となり、流行開始の目安である1.0人を上回りました。2018年第1週には14.15人と注意報値(10人)を超え、第3週には35.40人と警報値(30人)を超えました。第5週が56.98人でピークとなりました。第16週の定点あたり患者数は8.09人となりました。

県環境保健研究センターで実施したウイルス検査では、A/H3亜型(香港型)とA/H1pdm亜型、B型(山形系統)の3種類が検出されています。特にA/H3亜型とB型(山形系統)が多く検出されています。

主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染(飛沫感染)であり、他に飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もあります。新学期が始まり、学校等で集団生活が再開されると感染が拡大し、再び患者が増加するおそれがあります。

飛沫感染対策としての咳エチケット(有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと)、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要です。

参考 国立感染症研究所 インフルエンザ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>
IDWR 2018年第3号 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-m/flu-idwrc/7820-idwrc-1803.html>



※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点 国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

※インフルエンザシーズンは第36週から翌年35週まで

今注目の感染症 (つづき)

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は細菌やウイルス、寄生虫など多種多様な原因によっておこる胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスが大部分を占めています。近年では、流行の前半ではノロウイルスが、後半ではロタウイルスが患者から多く検出されています。

感染性胃腸炎の報告数は、例年12月頃にピークを迎えますが、2017年の12月は比較的報告数が少ない状況で推移しました。2018年第16週の定点あたり患者数は前週より増加し4.55人となりました。集団感染事例は2017年10月からこれまでに保育所等から24例報告されています。このうち20例がノロウイルス、残りの4例がサポウイルスを原因としたものでした。ノロウイルスによる集団感染事例の原因となった遺伝子型について、県環境保健研究センターが実施した検査では、2016年12月から2017年4月まではGII.2が主に検出されましたが、それ以降はGII.4が多く検出されています。

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは、感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染するので注意が必要です。保育所や老人福祉施設など、集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が勧められます。予防には、調理前や食事前、トイレの後などに石けんと流水による十分な手洗いを行うこと、患者の吐物や便を処理する際は、使い捨ての手袋やマスクを着用し、塩素系薬剤を使用すること、食品を十分に加熱することが重要です。

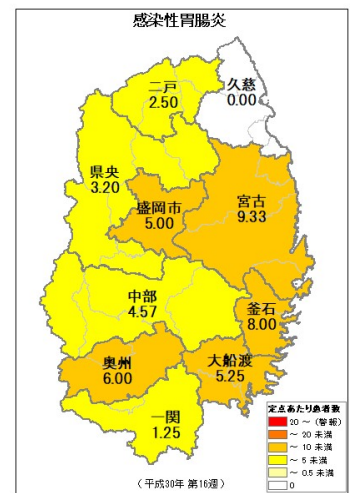
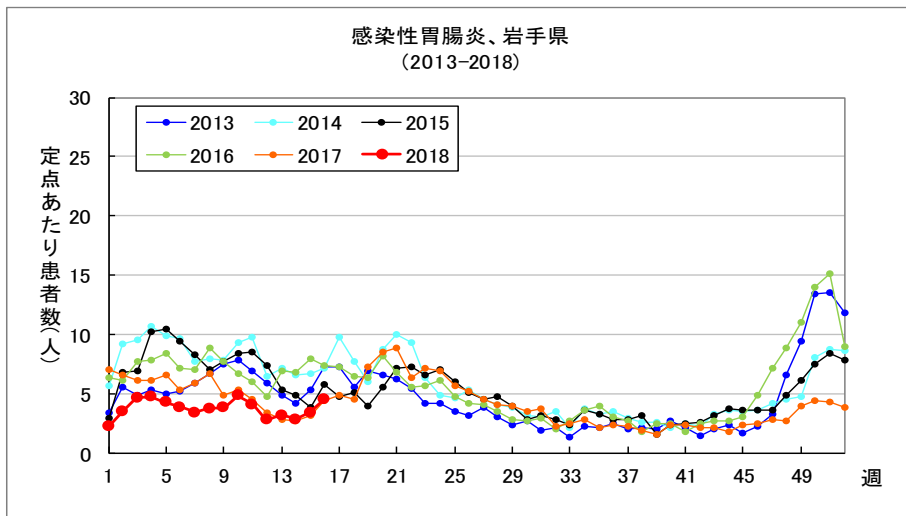
参考

国立感染症研究所 感染性胃腸炎とは

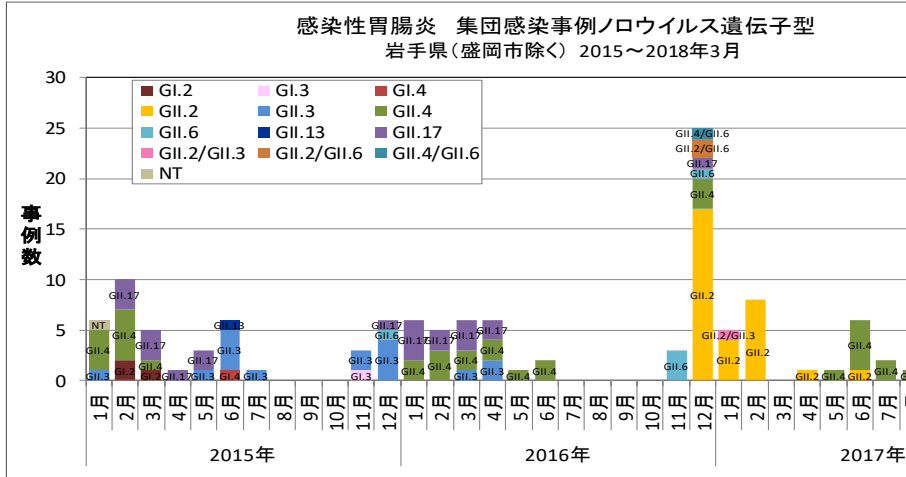
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/383-intestinal-intro.html>

厚生労働省 ノロウイルスに関するQ&A

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html



岩手県 第16週



※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土地数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

病原体検出情報

- ・上気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、インフルエンザウイルスB型（山形系統）を1件、インフルエンザウイルスAH3型を1件、それぞれ検出しました。
- ・下気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、パラインフルエンザウイルス2型を1件、アデノウイルス2型を1件、コロナウイルスを1件、それぞれ検出しました。
- ・不明熱の患者の咽頭ぬぐい液から、コロナウイルスを1件検出しました。
- ・伝染性紅斑の患者の咽頭ぬぐい液から、パルボウイルス（B19）を5件検出しました。
- ・リンパ節炎の患者の咽頭ぬぐい液から、ヒトヘルペスウイルス6型を1件、ヒトヘルペスウイルス7型を1件、それぞれ検出しました。
- ・感染性胃腸炎の患者の糞便から、ノロウイルスGIIを1件検出しました。
- ・熱性けいれんの患者の咽頭ぬぐい液から、ヒトヘルペスウイルス6型を1件検出しました。

集団感染情報

○感染性胃腸炎の集団発生について

盛岡市内の保育所（児童130名、職員37名）

- ・4月3日（火）から4月24日（火）までに園児18名に症状（嘔吐、下痢、発熱等）
- ・有症者4名からサポウイルスを確認

二戸市内の保育所（園児78名、職員19名）

- ・4月14日（土）から4月24日（火）までに園児10名に症状（嘔吐・下痢等）
- ・有症者9名からノロウイルスを確認

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（4月18日から24日まで発表分）

- ・岩手県 9件
- ・盛岡市 4件

詳細は岩手県医療政策室のホームページを御覧ください。

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/Influ/index.html>

医療機関からの情報

- ・この週には医療機関からの情報はありません。

Q & A

読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。

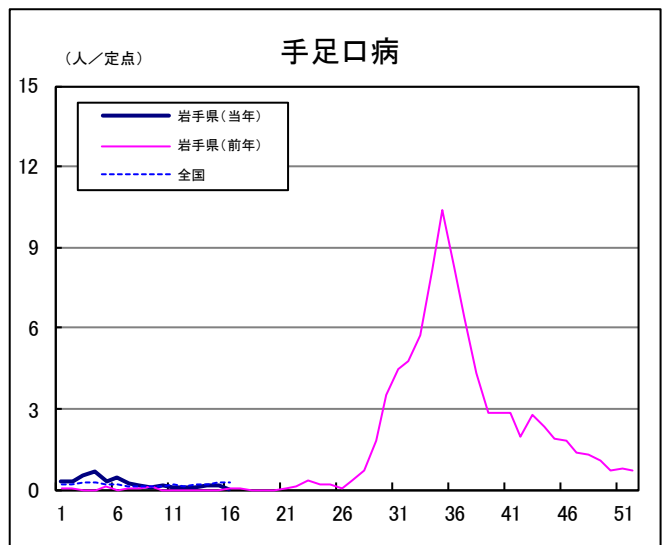
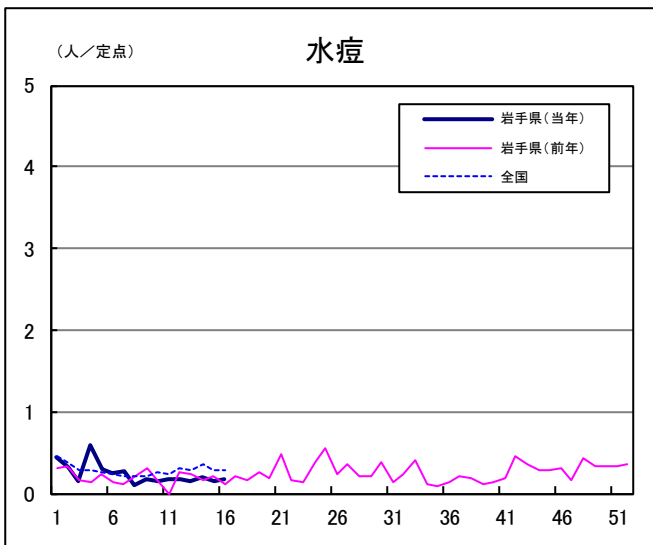
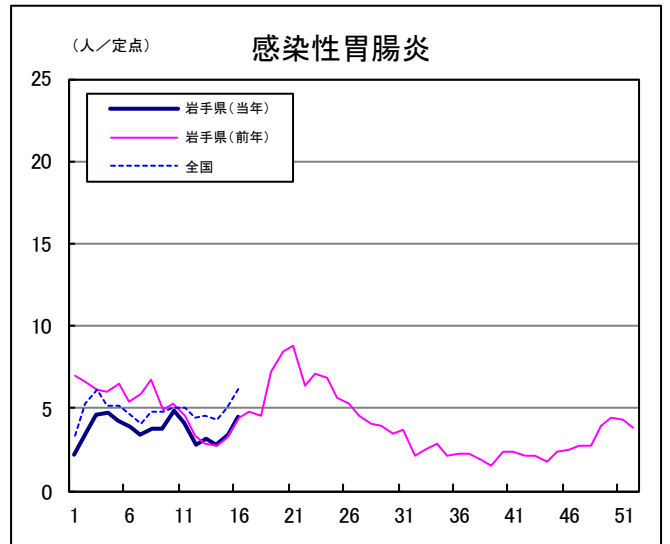
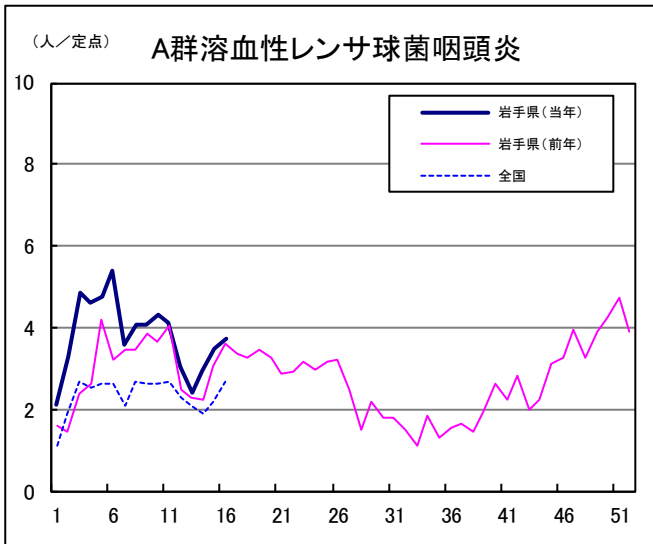
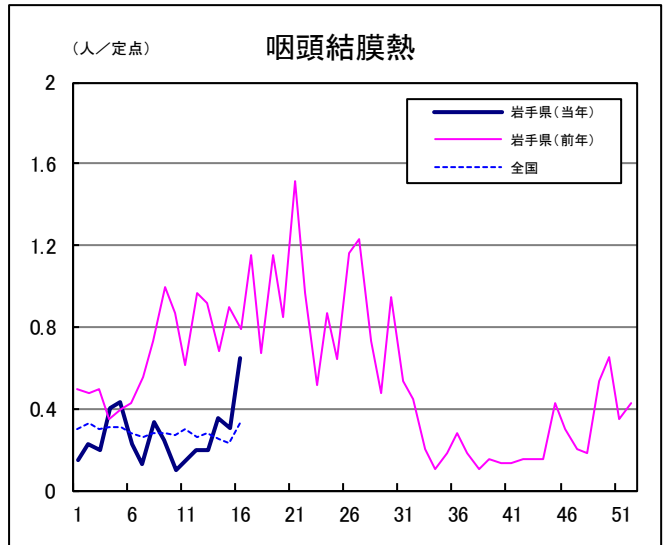
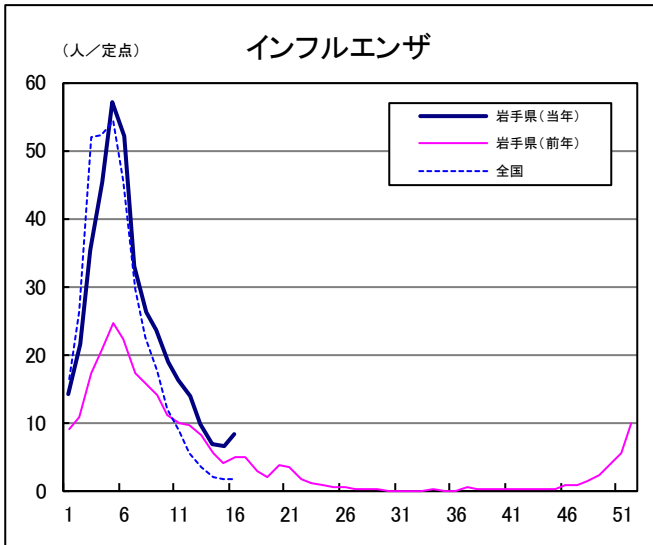
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

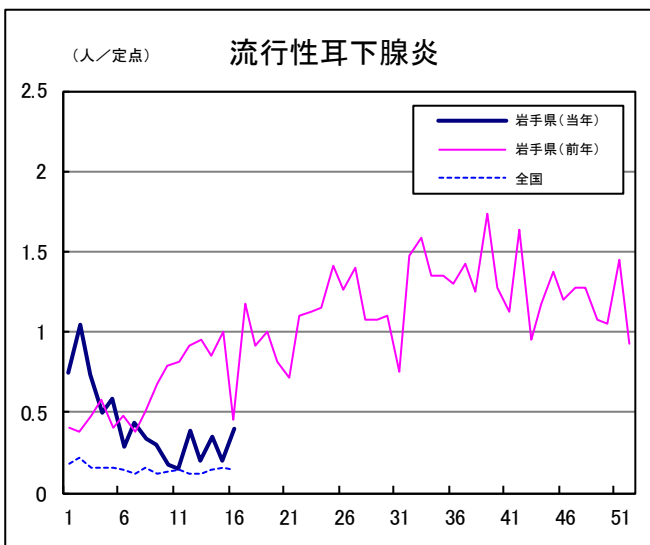
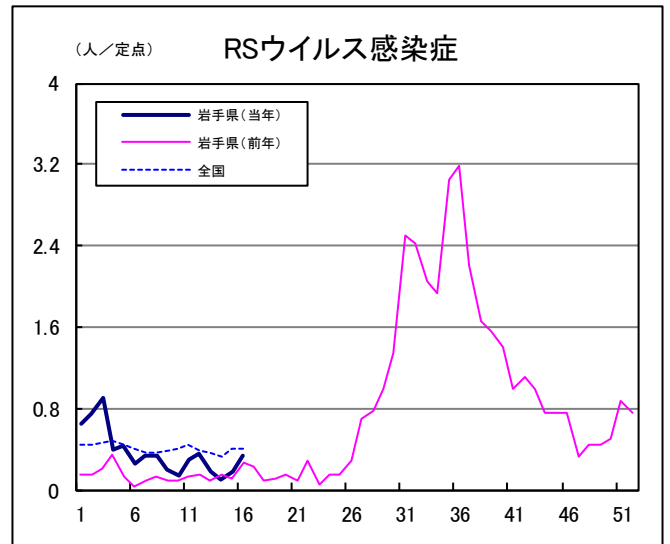
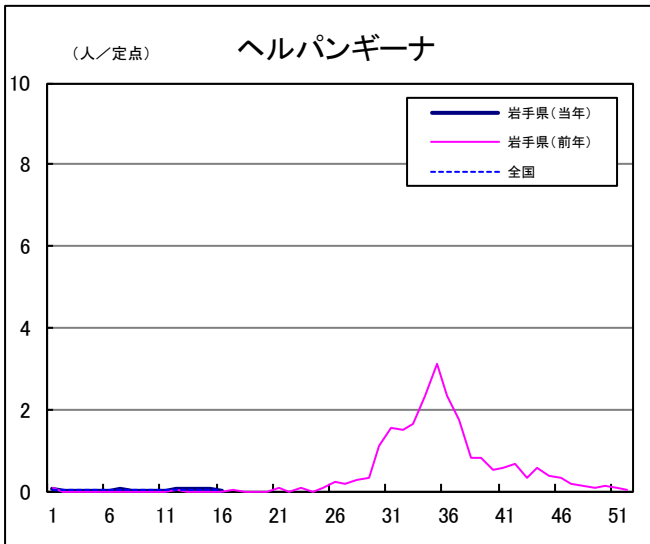
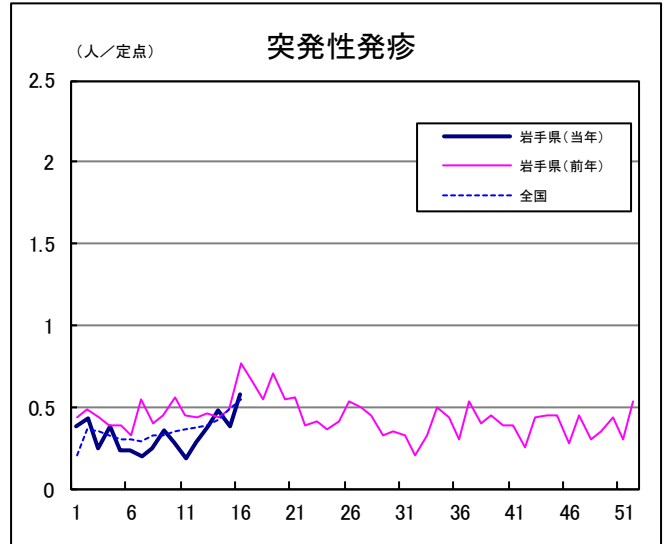
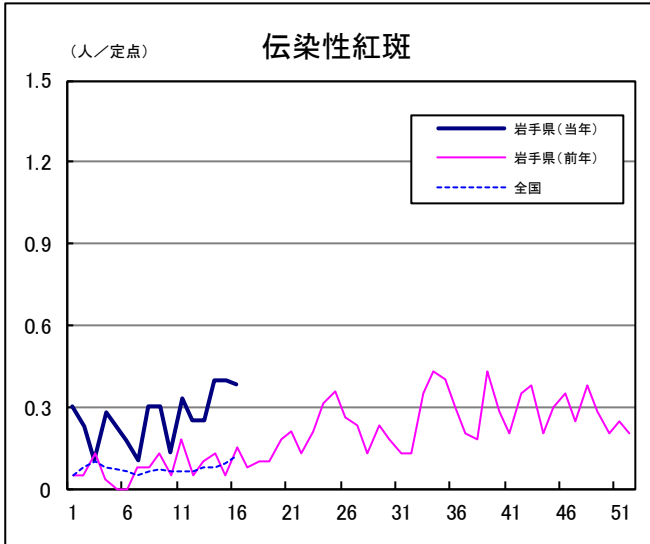
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

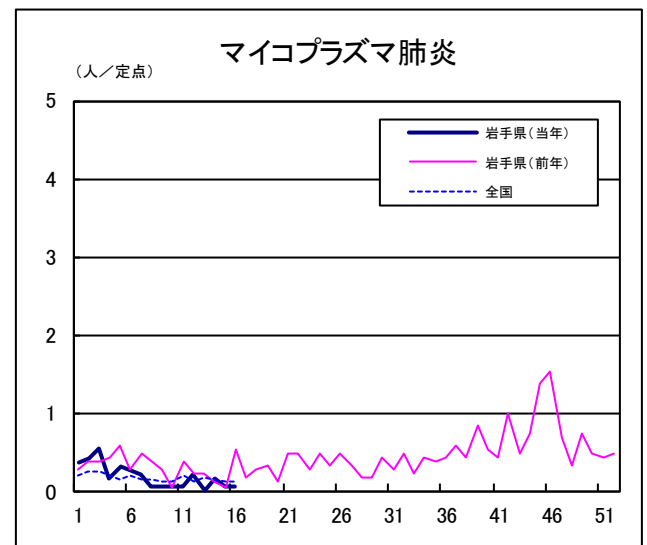
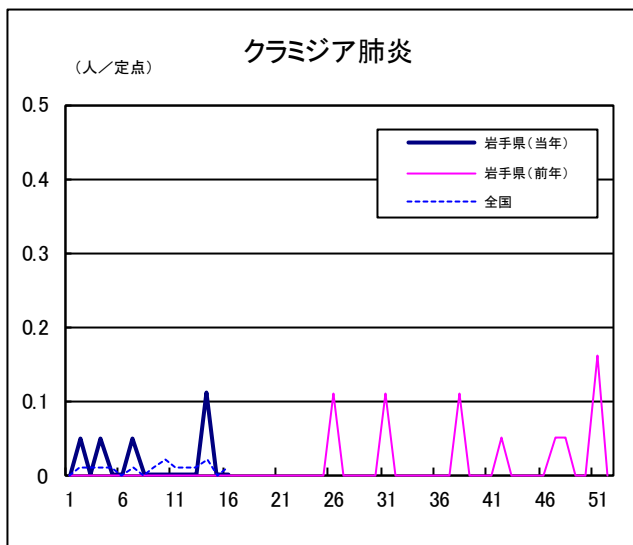
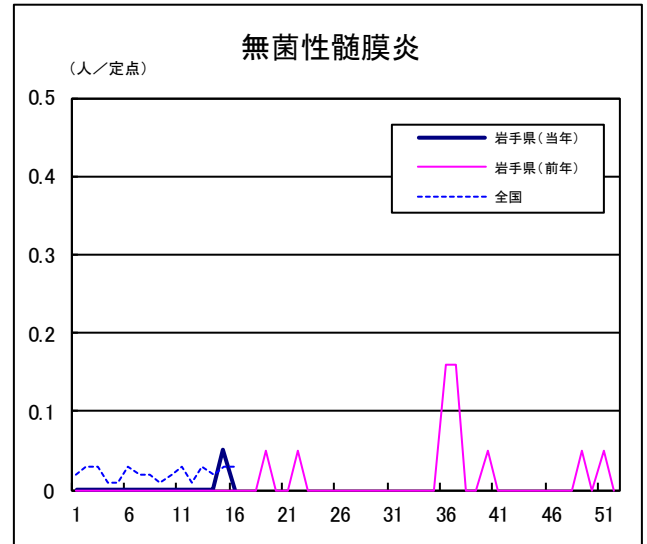
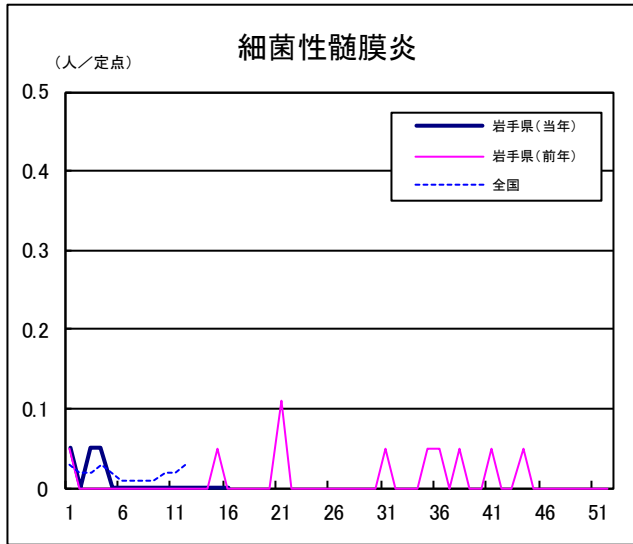
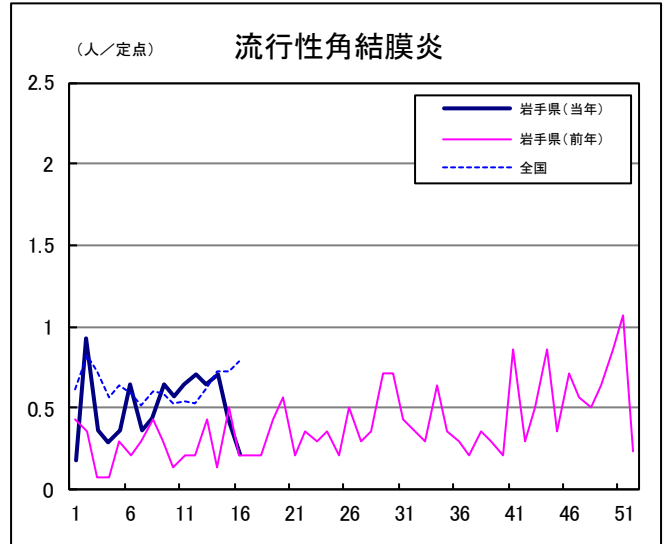
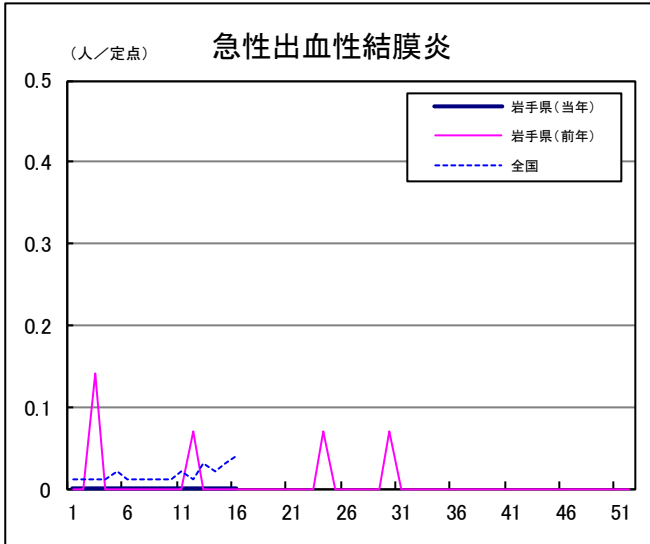
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成30年第16週 平成30年4月27日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>